

令和6年度

中堅教諭等資質向上研修  
(幼稚園教諭)

実施要項・様式集

問い合わせ先

島根県教育センター 企画・研修スタッフ  
〒690-0873 松江市内中原町255-1  
TEL (0852)22-5853 FAX (0852)22-5581

島根県教育委員会

# 島根県の教職員として求められる資質能力

教職員として求められる資質能力は、普遍的でいつの時代にも求められるものと、時代の変化に対応してその時代時代に求められるものがある。社会の変化や時代のニーズに応える学校教育の実現には、教職員の職務に応じた資質能力の向上が不可欠である。職務に関わる専門的知識・技能の他、様々な課題に対応するための実践的指導力の向上を図るためには、常に探究心を持ち自主的に学び続ける力が求められている。また、学校組織の一員としてのコミュニケーション能力、他者と連携・協働する力も大切である。そこで、島根県の教職員として求められる資質能力を次のように定める。

## 島根県の教職員として求められる資質能力

- 豊かな人間性と職務に対する使命感
- 子どもの発達の支援に対する理解と対応
- 職務にかかわる専門的知識・技能及び態度
- 学校組織の一員として考え行動する意欲・能力
- よりよい社会をつくるための意欲・能力

## キャリアステージに応じて求める姿と育成する資質能力

### 【採用までに身に付けておいて欲しいこと】

新規採用された段階。教職課程認定を受けた大学等、養成段階での学修等を通して、教育職員として勤めるための素養や基礎的・基本的な知識及び技能を身に付けていることが必要である。

### 【自立・向上期(1～5年目)】

新規採用時からおよそ5年目までの5年間の期間にあたり、教育職員として授業や学級経営等の実践的指導力を身に付けて自立し、向上心を持って成長していく基盤を固める期とする。

### 【探究・発展期(6～15年目)】

およそ6年目から15年目までの10年間の期間にあたり、教育職員として意欲的に教育活動を実践し、得意分野を開発・探究していくなどにより専門的な知識及び技能の充実を図る期とする。

### 【充実・円熟期[前期](16年目～概ね25年目)】

経験16年目以降から概ね25年目の期間にあたる。教育職員として様々な教育実践を重ねることで教科等の専門的知識及び技能を高めるとともに、主任やミドルリーダーとしての自覚や責任を持って教育活動を円滑に進める資質能力を高めていく期とする。

### 【充実・円熟期[後期](概ね26年目以降)】

概ね経験26年目以降の期間であり、経験豊富で知見があるベテラン層の年代にあたる。教育職員として教科等の専門的知識及び技能をさらに高めていきながら、学校運営にも積極的に参画し、後進にも適切な助言を与えるなど人材育成を図っていく期とする。

# 島根県公立学校教育職員の育成指標

「島根県公立学校教育職員人材育成基本方針」

## 教諭等の育成指標

～学び続ける教育職員を目指して～

令和5年3月 島根県教育委員会

資質能力	キャリアステージ 〔採用までに身に付けておいて欲しいこと*2〕	自立・向上期 (1~5年目)	探究・発展期 (6~15年目)	充実・円熟期 (16~概ね25年目) 【前期】*3 (26年目以降) 【後期】	
		1 豊かな人間性と職務に対する使命感	①人間理解・人権意識 ・生命尊重・人権尊重の精神と、多様な価値観を尊重する態度を有している。 ②職務に対する誇りと責任 ・教育職員として必要な倫理観、職務に対する使命感・責任感を持ち、自分の将来のキャリアや求められる役割を意識しながら、変化に応じて常に学び続けようとしている。 ・危機管理の知識や視点を持ち、教育活動における事故・災害等に普段から備えている。 ・関係法の理念を十分理解し、教育職員等による児童生徒性暴力等を断固として許さず、子どもの尊厳を保持しようとしている。 ③ふるさとを愛する心 ・地域の自然・歴史・文化・伝統を理解し尊重する態度、ふるさとを愛する人材育成への意欲を有している。		
2 子どもの発達への支援に対する理解と対応*1	④生徒指導の推進 ・発達段階を踏まえた子ども理解・子ども支援、キャリア発達など生徒指導に必要な基礎理論・知識を習得している。 ⑤特別支援教育の推進 ・特別な配慮や支援を必要とする子どもへの指導に関する基礎理論・知識を習得している。	・子どもとのふれあいや観察を通して、様々な行動の内に潜む微妙な心の動き、キャリア発達を共感的に受け止め、良さや可能性を伸ばしながら、学級等の集団づくりを進めることができる。	・子どもの心身の発達やキャリア発達に対する理解を深め、個に応じた指導や学年等の集団指導を実践することができる。	・キャリア発達の視点をふまえ、教職員と協働したり地域社会や外部機関と連携したりしながら、さまざまな場面をとらえて子どもが自分らしい生き方を実現するための力を育成することができる。	・子どもに関わる様々な問題やキャリア発達への対応力を身に付け、学校の教育活動全体を通じた連携体制をつくりながら、子どもの自己実現の達成をめざして支援していくことができる。
3 職務にかかわる専門的知識・技能及び態度	⑥教科等の指導に関する専門性	・教育課程の編成、教科等の指導方法に関する基礎理論・知識を習得している。 ・子どもの心身の発達や学習過程に関する理解に基づいて、興味・関心を引き出す教材研究をしたり、学習者中心の授業となるよう工夫したりすることができる。	・教科等を学ぶ意義を踏まえて指導計画を作成し、教科等の指導を実践することができる。 ・子どもの心身の発達や学習過程に関する理解に基づいて、興味・関心を引き出す教材研究をしたり、学習者中心の授業となるよう工夫したりすることができる。	・教科等の専門的知識・技能及び態度を高め続けることができる。 ・教科等の相互関連や学校段階間の円滑な接続を意識した教育実践を行うことができる。 ・校内研修の中心的な役割を担うことができる。	・教科等の専門的知識・技能及び態度をさらに高め、後進に適切な助言を与えながら、人材育成に取り組むことができる。
	⑦ICTや情報の利活用*4	・ICTを活用した授業デザインを実現するための、ICT活用に関する基礎的な知識(情報モラルを含む)や基本的な技能を有している。	・今まで学んできたICT活用や教育データ活用に関する基礎的な知識・技能を教科等の指導や校務に積極的に取り入れながら活用することができる。	・教育データを整理・分析し適切に業務に取り入れながら、ICTをより効果的な形で活用することができる。	・時代に即応した知見を取り入れつつ、さらに専門性の向上をはかりながら、同僚と連携・協働し、校内に広めていくことができる。
	⑧社会の変化への対応	・新たな学びや教育課題に対して、積極的に挑み試行錯誤しながら粘り強く取り組む意欲や探究心を有している。	・新たな学びや教育課題に対して、適切な対応の仕方を具体的に考え取り組むことができる。	・新たな学びや教育課題に対して、適切な対応の仕方を提案し、協働して取り組むことができる。	・新たな学びや教育課題に対して、長期的な見通しをもって組織的に取り組むことができる。
4 学校組織の一員として考え行動する意欲・能力	⑨学校組織マネジメント	・学校教育の社会的・制度的・経営的理解に必要な基礎理論・知識を習得している。	・学校教育目標に沿った自己目標を立て、その達成に向けて取り組むことができる。	・組織の一員としての役割を理解し、学校の課題に対応することができる。	・スクールリーダーとしての自覚や責任を持つとともに、企画力や調整力を発揮して教育活動を円滑に進めることができる。
	⑩他者との連携・協働	・集団で活動する際、自己を成長させようとする意欲や態度を有している。	・他の教職員の意見を活かしながら、自らの役割に応じて行動することができる。	・経験豊かな教職員から多くのことを学ぶとともに、同僚と連携・協働しつつ、後進に助言を与えるなどして育成にも目を向けることができる。	・他の教職員の役割分担や業務の進捗状況を把握・調整しながら、相互に支えあう体制づくりができる。
5 よりよい社会をつくるための意欲・能力	⑪地域資源の活用と地域貢献	・学校教育活動を通して、地域社会に貢献することについて、自分なりの考えや意欲を有している。	・子どもと地域社会をつなごうとする意欲を持ち、地域と連携した学校教育活動を計画に基づいて実践することができる。	・学校外の様々な地域資源や機会を活用し、地域と連携した学校教育活動を効果的に実践することができる。	・地域にある他の学校および幼児教育・保育施設や行政との連携・協働について、円滑な接続を意識しながら企画力や調整力を発揮して、主体的・組織的に実践することができる。
	⑫合意形成に向けた議論の調整・促進	・子ども同士の話し合いの場面において、適切に働きかける力を有している。	・子ども同士が協働し、探究していく活動を円滑に実践することができる。	・現実の社会や地域との関わりを意識しながら、子ども同士が議論をしたり、合意形成を図ったりするよう促すことができる。	・地域課題解決型学習などを企画することができ、魅力ある地域づくりに向けた議論を効果的に調整・促進することができる。

\*1 この指標において「子ども」とは幼児・児童・生徒のことである。

\*2 「採用までに身に付けておいて欲しいこと」は、採用時における資質能力の目安として示した。

\*3 「充実・円熟期」の「前期」と「後期」の境目は概ね25年目を目安とするが、個々の教員の実態に応じて柔軟に運用してよいものとする。

\*4 指標⑦「ICTや情報の利活用」について、求められる資質能力と実態差がある場合には、技能に応じたキャリアステージを起点としつつ、可能な限り早期に自分のキャリアステージの資質能力を身に付けていくこととする。

# 目 次

## 島根県公立学校教育職員育成基本方針

### 島根県公立学校教育職員の育成指標

中堅教諭等資質向上研修(幼稚園教諭)実施要項	1
中堅教諭等資質向上研修(幼稚園教諭)概要	2
目的、研修の対象者、研修期間と認定	3
所属教育センター、園内の指導体制、研修内容	4
研修計画、研修報告、計画書・報告書等の提出先、提出方法及び締切日	8
中堅教諭等資質向上研修(幼稚園教諭)様式	10
様式1 資質能力自己評価表	11
様式2 計画書	12
計画書(記入例)	14
様式3 報告書	16
報告書(記入例)	18
様式4 オンデマンド研修レポート	20
様式5 課題研究レポート(中間発表用)	21
様式6 課題研究レポート	22
様式7 園内研修の企画運営(報告書)	23
参考様式 研修依頼書	24

この実施要項・様式集では、下表の左欄の表記を右欄の通り表記する。

島根県教育委員会	県教育委員会
島根県教育センター研修情報システム	研修情報システム

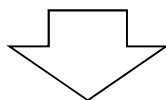
# 中堅教諭等資質向上研修 (幼稚園教諭)

## 実施要項

## 中堅教諭等資質向上研修(幼稚園教諭)概要

### 島根県公立学校教職員人材育成基本方針における育成指標「探究・発展期」

およそ6年目から15年目までの10年間の期間にあたり、教育職員として意欲的に教育活動を実践し、得意分野を開発・探究していくなどにより専門的な知識及び技能の充実を図る期とする。

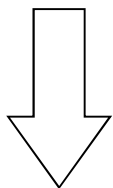


### 教職経験年数に応じた研修の一環として1年間の研修を実施

#### 【目的】

- ・幼稚園教諭としての専門的知識及び技能を高める
- ・主任や中堅幼稚園教諭としての自覚をもって、幼稚園運営等の重要な役割や若手教員への指導的役割を果たす上で必要な資質能力を高める

#### 計画等(4、5月)



- ・自己評価
- ・計画書の作成・提出

#### 研修内容(4月～2月)



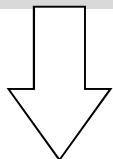
##### OJT研修

- ・保育等の研修 [通年]
  - 保育研究 [3回]
  - 課題研究 [2回]
- ・メンタルヘルス [1回]
- ・園内研修の企画運営 [1回]

##### Off-JT研修

- ・教育センター研修 [3.5日]
  - 集合型研修 (1日)
  - オンライン研修 (2日)
  - オンデマンド研修 (0.5日)
- ・異校種体験研修 [2日]
- ・園外必修研修 [2日]

#### 報告(2月)



報告書等の作成・提出

#### 次年度の取組

# 中堅教諭等資質向上研修(幼稚園教諭)実施要項

## 1 目 的

教育公務員特例法第24条及び同法附則第6条の規定に基づき、個々の能力や適性等に応じて、幼稚園教諭としての専門的知識及び技能を高めるとともに、中堅教諭としての自覚をもち、幼稚園運営等において中核的な役割を果たす上で必要な資質能力の向上を図る。

## 2 研修の対象者

(1) 公立の幼稚園・幼稚園型認定こども園(以下「幼稚園等」という。)の教諭のうち、令和5年度末に、教職経験年数(以下、「経験年数」という。)が10年以上(保育士としての在職経験があり、新規採用幼稚園教諭研修を受講した者については、その在職年数を含む)の者で、中堅教諭等資質向上研修をまだ受講していない者を該当者とし、そのうち、令和6年度に研修を受講する者を対象者とする。(研修年度については、本人の希望や園等の実情等を踏まえ、経験年数11年目から13年目の3年間のいずれかの年度で1年間受講するものとする。保育士としての在職経験があり、新規採用幼稚園教諭研修を受講した者の研修年度については、この限りではない。)

(2) 経験年数の計算にあたっては、以下の点に留意すること。

ア 国立、公立又は私立の幼稚園等の教諭として在職した期間(臨時的に任用された期間を除く。)を通算した年数とする。県外での経験年数も含む。

イ 指導主事、社会教育主事その他教育委員会において学校教育又は社会教育に関する事務に従事した期間がある場合、その期間は当該経験年数とする。

ウ 在職期間中、下記に掲げる休業等がある場合の経験年数の計算方法

- ・ 勤務年数の月端数処理をして、勤務年数を合計する。
- ・ 島根県及び他県での正規採用の年数のみを計算の対象とする。(講師等は除く)
- ・ 勤務年数の月端数は、5捨6入する。※5月以下は0年、6月以上は1年
- ・ 月の端数を処理したのち、勤務年数を合計したものを経験年数とする。

休業等

(ア) 休職、停職(地方公務員法)

(イ) 欠勤

(ウ) 育児休業[産前産後休暇の期間は含めない](職員の育児休業等に関する条例)

(エ) 私傷病休暇、介護休暇(県立高等学校等の教育職員の休日及び休暇に関する条例  
市町村立学校の教職員の給与等に関する条例)

(オ) 大学院修学休業、長期研修(教育公務員特例法)

(カ) 自己啓発等休業(職員の自己啓発等休業に関する条例)

(キ) 配偶者同行休業(職員の配偶者同行休業に関する条例)

(ク) 職員団体の役員として専ら従事(地方公務員法)

(ケ) その他、経験年数から除算すべき期間として県教育委員会が定める期間

(3) 以下の者は研修を免除する。

ア 他の任命権者が実施する中堅教諭等資質向上研修(10年経験者研修)を修了した者

イ その他、県教育委員会が定める者

## 3 研修期間と認定

(1) 県教育委員会が定める年度の1年間とする。

(2) 全ての研修を修了した者を研修修了と認定する。なお、研修期間については、特別な事情があった場合、8ヵ月以上の研修期間を有することとする。

※ 年度途中で対象者の研修が継続不能になるおそれがある場合、園長は所属教育センターに連絡すること。

#### 4 所属教育センター

島根県教育センター

#### 5 園内の指導体制

園長は、園全体としての協力体制を確立し、適宜適切な指導及び助言を行うこと。又、対象者が本研修を実施するにあたり、園務分掌の軽減等について配慮すること。

#### 6 研修内容

(1) OJT研修(日常の教育活動を通して、職務に必要な資質・能力を計画的・重点的に身に付ける研修)

研修実施にあたり、教育センター研修等、園外における研修との有機的な関連を考慮しつつ実施するよう配慮すること。

##### ア 保育等の研修(通年)

##### (ア) 保育研究(2回)

[ねらい]

自ら計画・実践・評価・改善を行い、継続的に保育等の指導力の向上を図る。

[研修の方法]

- ・保育の在り方、環境の構成等に重点をおき、対象者が公開保育を2回行うこと。
- ・保育研究の内容や方法については、対象者の指導改善につなげることができるよう工夫すること。
- ・「保育指導案の検討」「研究保育」「保育後の研究協議等」をもって1回とする。
- ・指導案の作成にあたっては、管理職を含む複数の教員で協議すること。

##### (イ) 課題研究(3回)

[ねらい]

保育実践上の諸課題に向けて研究を行い、課題解決力や実践力の向上を図る。

[研修の方法]

- ・指導方法や教材に関して自らの課題意識に基づく研究テーマを設定すること。
- ・課題研究の取組状況と研究結果を所属園の教職員の前で発表すること。「研究構想、計画の発表」「研究中間発表」「研究成果発表」をもって3回とする。
- ・教育センター研修においても、「研究中間発表」「研究成果発表」を行う。

##### イ メンタルヘルス(1回)

[ねらい]

心身の健康の保持増進を図るために、ストレスに対処する考え方や行動を身に付ける。

[研修方法]

2月中旬までに、管理職等による研修を受講する。又は、島根県、県教育委員会、市町村及び市町村教育委員会が主催又は後援する研修に参加することで代えてもよい。

##### ウ 園内研修の企画運営(1回)

[ねらい]

幼稚園運営等における中核的な役割を果たすために、専門的知識及び技能を高め、企画力や調整力を身に付ける。

[内容及び方法]

園内研修の実施において、事前準備及び当日の運営等の中心的役割を担うこと。なお、具体的な内容については、以下の例を参考にし、事前事後に管理職や主任等から指導を受けること。



研修内容(例)	事前準備(例)	当日の運営等(例)
<ul style="list-style-type: none"> <li>・接続カリキュラムについて</li> <li>・子どもの見取りと援助</li> <li>・人権同和教育</li> <li>・ハラスメント</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・実施計画作成と起案</li> <li>・担当分掌での役割分担と打ち合わせ</li> <li>・講義又は演習資料の準備</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・講義</li> <li>・演習説明と運営</li> <li>・Off-JT 研修内容の伝達</li> <li>・振り返り</li> </ul>

(2) Off-JT研修(日常の職務を離れて、職務に必要な資質・能力を計画的・重点的に身に付ける研修)

ア 教育センター研修(3.5日)

[ねらい]

(ア) 幼稚園教諭としての専門的知識及び技能を高める。

(イ) 幼稚園運営等の円滑かつ効果的な実施において、中核的な役割を果たす上で必要な資質・能力の育成を図る。

(ウ) 対象者同士の協議を通して互いに学び、実践的意欲や態度を養う。

[内容及び研修場所]

(ア) 集合研修(1日)……………教育センターが指定した会場

(イ) オンライン研修(2日)……………所属園又は園長が指定した場所

(ウ) オンデマンド研修(0.5日)……………所属園又は園長が指定した場所

[研修期日及び会場、研修項目等]

回	期日	会場	研修項目等
第Ⅰ回	オンライン 5月17日(金)	所属園又は 園長が指定した場所	<ul style="list-style-type: none"> <li>・開講式</li> <li>・オリエンテーション</li> <li>・組織マネジメント</li> <li>・幼稚園教育要領と島根県の幼児教育施策</li> </ul>
第Ⅱ回	オンデマンド 6月～8月末	所属園又は 園長が指定した場所	<ul style="list-style-type: none"> <li>・幼小連携・接続オンデマンド研修</li> <li>・教職員の倫理とサービス</li> <li>・竹島に関する学習</li> <li>・教育の情報化</li> </ul>
第Ⅲ回	集合 8月8日(木)	島根県教育センター	<ul style="list-style-type: none"> <li>・課題研究中間発表</li> <li>・保育指導案</li> <li>・生徒指導・教育相談</li> </ul>
第Ⅳ回	オンライン 2月18日(火)	所属園又は 園長が指定した場所	<ul style="list-style-type: none"> <li>・人権教育</li> <li>・特別支援教育</li> <li>・課題研究成果発表</li> <li>・研修の振り返り</li> <li>・閉講式</li> </ul>

※ 各回の研修実施要項は、実施日の3週間前に島根県幼児教育センターHP及び研修情報システム MyPage に公開する。

※ 対象者が、教育センター研修を欠席、遅刻、早退、会場・期日の変更をする場合、園長は所属教育センターに連絡する。その後、協議により欠席等が認められた場合は、速やかに島根県幼児教育センターHP にある「欠席届」(様式第1号)を1部提出すること。

ア 園長は、市町村教育委員会教育長又は市町村担当課長に提出すること。

イ 市町村教育委員会教育長又は市町村担当課長は、所属教育センターの長に送付すること。

※ オンデマンド研修では、全ての項目を視聴し、「幼小連携・接続オンデマンド動画」及びその他1つの項目について記入すること。オンデマンド研修レポート[様式4]にまとめPDFにして研修情報システム MyPage から提出すること。

[研修項目別の目的と内容]

回	研修項目	目的と内容
第Ⅰ回	組織マネジメント	カリキュラム・マネジメントについて理解を深めるとともに、組織マネジメントの必要性や中堅幼稚園教諭としての役割について理解し、幼稚園運営等に積極的に関わろうとする意欲をもつ。 (ア) 幼稚園教育におけるカリキュラム・マネジメント (イ) 組織マネジメントの必要性 (ウ) 中堅幼稚園教諭としての役割
	幼稚園教育要領と島根県の幼児教育施策	幼稚園教育要領改訂の背景と目指す方向性を学び、新しい時代に必要となる資質・能力の育成と評価の充実について理解する。 (ア) 育成すべき資質・能力の三つの柱とその評価 (イ) 社会に開かれた教育課程 (ウ) 島根県の幼児教育の現状と幼児教育施策
	オリエンテーション	中堅教諭等資質向上研修の内容等を理解し、研修の見直しをもつ。 (ア) OJT 研修とOff-JT研修の進め方 (イ) 計画と振り返り
第Ⅱ回	幼小連携・接続オンデマンド研修	幼児教育と小学校教育の円滑な接続について理解を深め、実践に生かす。
	教職員の倫理と服務	教職員として、高い倫理観と教職に対する情熱・意欲や使命感、責任感をもつ。 (ア) 教育法規等についての理解 (イ) 事例から学ぶ
	竹島に関する学習	竹島問題について、歴史的事実や国際法上の根拠等についての理解を深め、竹島に関する学習を一層充実させるための指導力を高める。 (ア) 島根の指導者に求められること (イ) 竹島問題についての正しい理解 (ウ) 「竹島に関する学習」のこれから
	教育の情報化	学習の基盤となる資質・能力の一つである「情報活用能力」の育成や「教育情報セキュリティ」について理解するとともに、教職員に求められるICT活用指導力等の向上を目指す。 (ア) 情報活用能力の育成(情報モラルを含む) (イ) 教育情報セキュリティ
第Ⅲ回	課題研究中間発表	各自の課題研究への取組の実際を伝え合うとともに、2学期以降の実践に向けて見直しをもつ。
	保育指導案	それぞれの園の保育指導案の良さや工夫した事柄を出し合い、「保育指導案作成で大切にしたいこと」を考えることで、保育への理解と実践力を高め、他の教職員への指導力を身に付ける。
	生徒指導・教育相談	児童生徒等や保護者等を適切に支援し、様々なケースに対応していく力量を高める。 (ア) 児童生徒等や保護者への支援 (イ) 状況に応じた連携支援
第Ⅳ回	人権教育	中堅幼稚園教諭として、誰もが安心して学びに向かえる学校づくりを推進するためのコーディネートをする力を身に付ける。 (ア) 島根が目指す人権教育の理念に基づく組織的な取組の推進 (イ) 人権が尊重される環境・集団づくり
	特別支援教育	共生社会の形成に向けたインクルーシブ教育システム構築のための特別支援教育の推進について理解を深め、園内での特別支援教育の推進を図るための実践力を高める。 (ア) 園内における特別支援教育の推進
	課題研究成果発表	課題研究成果発表会等を通して1年間の研修を振り返り、研修の成果を確かめるとともに、次年度の保育実践について展望をもつ。
	研修の振り返り	個々の能力や適性に応じて、幼稚園教諭としての専門的知識及び技能を高めるとともに、中堅幼稚園教諭としての自覚をもち、幼稚園運営等において中核的な役割を果たす上で必要な資質能力の向上を図るという研修の目的を振り返り、次年度以降の取組への展望と意欲をもつ。 (ア) 1年間の振り返り

## イ 異校種体験研修(2日)

[ねらい]

異校種の授業への体験的参加(授業参観、協議、チーム・ティーチング等)などを通して、系統性や発達の段階を踏まえた保育の在り方や異校種間の連携について理解し、自らの教育実践を振り返るとともに指導力の向上を図る。

[研修日数、内容]

園長及び対象者は、研修先を選定し、受け入れ先と協議して、研修依頼書(参考様式を参照)を研修先の所属長に提出すること。2月中旬までに通算2日実施すること。内容は、参観だけでなく、児童生徒等に関わる体験的なものを含める。

[研修先の範囲]

所属園が所在する市町村又は近隣の小学校、義務教育学校前期課程及び特別支援学校小学部とする。2日とも同一の学校において研修を行うこと。なお、自身の所属園と研修先の所属長が同一の場合は、研修先として認めない。

## ウ 園外必修研修(2日)

[ねらい]

幼稚園教育における課題に応じた内容の研修を受講し、幼稚園教育への理解を深め、資質能力の向上を図る。

[選択方法等]

年度当初に下記の研修の申込みを行うこと。

- ・全員「幼児教育推進研修」を受講すること。
- ・「幼小連携・接続研修」又は「保育教諭・幼稚園教諭・保育士合同研修」のいずれか1つを選択して受講すること。

[研修名と期日及び会場、研修項目等]

	研修名	期日	会場	研修項目等
必修	幼児教育推進研修	8月23日(金)	くにびきメッセ	・幼稚園教育要領に基づいた保育実践についての講義・協議
どちらかを一つを選択	幼小連携・接続研修 ※	※	※	・幼児教育と小学校教育の円滑な接続に関する講義・演習
	保育教諭・幼稚園教諭 ・保育士合同研修	10月25日(金)	オンライン	未定

※「幼小連携・接続研修」を選択する場合は、所属園が所在する市町村が主催する「幼小連携・接続研修」を受講すること。

## 7 研修計画

### (1) 自己評価

対象者は、5つの「育成指標における資質能力」について、資質能力自己評価表(様式1)を基にこれまでの実践等を振り返り、計画書(様式2)に自己の優れている点及び課題を記入すること。次に、5つのうち「重点とする資質能力」を2つ選び、今年度伸ばしたい点について記入すること。

### (2) 研修計画

対象者は、管理職と相談しながら研修計画を立て、計画書[様式2]に必要事項を記入すること。

## 8 研修報告

### (1) 自己評価

・対象者は、5つの「育成指標における資質能力」について、資質能力自己評価表を基に1年間の研修の取組について振り返ること。

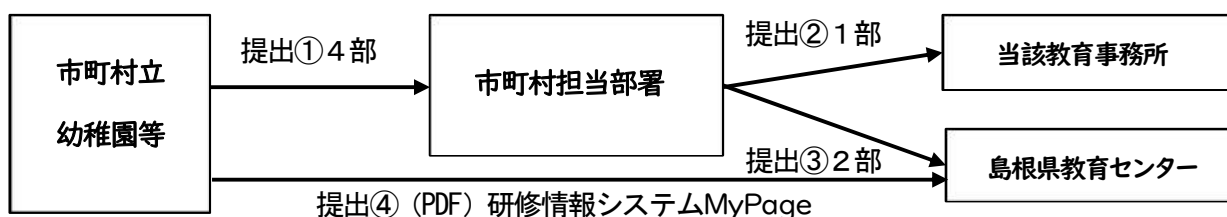
・対象者は計画時に選んだ「重点とする資質能力」の2つについて、取組に対する成果について報告書[様式3]に記入すること。

### (2) 研修報告書の作成

・対象者は、管理職等から受けた指導・助言をもとに、報告書[様式3]を作成し、園長に提出すること。

## 9 計画書・報告書等の提出先、提出方法及び締切日

### (1) 計画書・報告書等の提出の流れ



提出先の市町村担当部署は、以下の通りである。

【松江市】松江市子育て部(子育て政策課安心子育て推進室)

【安来市】安来市健康福祉部(こども未来課)

【出雲市】出雲市子ども未来部(保育幼稚園課)

【雲南市】雲南市子ども政策局(子ども政策課)

【浜田市】浜田市健康福祉部(子ども・子育て支援課)

【大田市】大田市教育委員会(学事魅力化推進室)

(2) 計画書・報告書等の提出締切日等について

提出順	様式	提出文書	提出先と締切日		
1	様式2	計画書(紙媒体)	各園 ↓提出①4部 市町村担当部署 5月30日(木)	市町村担当部署 ↓提出②1部 各教育事務所 6月6日(木)	市町村担当部署 ↓提出③2部 島根県教育センター 6月6日(木)
2	様式5	課題研究レポート 中間発表用 (PDF)※1	提出④ 研修情報システム MyPage から 7月25日(木)		
		保育指導案(PDF)※1			
3	様式4	オンデマンド研修レポート (PDF)※1	提出④ 研修情報システム MyPage から 9月19日(木)		
4	様式6	課題研究レポート 成果発表用 (PDF)※1	提出④ 研修情報システム MyPage から 令和7年2月6日(木)		
5	様式6	課題研究レポート 最終報告用 (PDF)※1	提出④ 研修情報システム MyPage から 令和7年2月25日(火)		
	様式3	報告書(紙媒体)	各園 ↓提出①4部 市町村担当部署 令和7年 2月25日(火)	市町村担当部署 ↓提出②1部 各教育事務所 令和7年 3月4日(火)	市町村担当部署 ↓提出③2部 島根県教育センター 令和7年 3月4日(火)
	様式6	課題研究レポート 最終報告用 (紙媒体)			
		保育指導案(1回分) (紙媒体)			
様式7	園内研修の企画運営 報告書 (紙媒体)				

※上記の一覧表を参照し、園長の指導、決裁を受け、期限内に提出すること。

※1 電子データで提出するものは、PDFに変換して研修情報システムの MyPage より提出すること。

課題研究レポート(最終報告用)は、紙媒体と電子データの両方で提出すること。

## 10 その他

研修の成果は、職員へ還元し、より多くの職員の資質能力の向上と園の活性化につながるよう努めること。さらに、園内研修はもとより、県内の各種研修会等で積極的に発表することが望ましい。

# 中堅教諭等資質向上研修 (幼稚園教諭)

## 様式集

資質能力自己評価表(探究・発展期)

学校名[

] 氏名[

]

【評価】 4:よく当てはまる 3:当てはまる 2:あまり当てはまらない 1:当てはまらない ○で囲む

資質能力		評価項目	研修前評価	研修後評価
1 豊かな人間性と職務に対する使命感	人間理解・人権意識	職員の姿が子どもに影響を及ぼすことを理解し、子どもが一人の人間として大切にされていると実感できる環境づくりを心掛けている。	4 3 2 1	4 3 2 1
		あらゆる他者を価値ある存在として尊重し、多様な価値観を尊重する態度や幅広い視野・知識を身に付けている。	4 3 2 1	4 3 2 1
	職務に対する誇りと責任	高い倫理観と教職に対する使命感、責任感を持ち、教育職員として生涯を通じて学び続け、子ども一人一人の主體的な学びを支援する伴走者としての役割を果たしている。	4 3 2 1	4 3 2 1
		危機管理意識を高め、教育活動における事故・災害等に対して備えたり、事前指導、対応、事後指導を行ったりできるようにしている。	4 3 2 1	4 3 2 1
ふるさとを愛する心	ふるさとを愛し、県や園の所在する地域の特長を理解するとともに、「ふるさと教育」を積極的に行っている。	4 3 2 1	4 3 2 1	
2 子どもの発達への支援に対する理解と対応	生徒指導の推進	子どもとの信頼関係づくりを努めるとともに、子ども相互の好ましい人間関係を構築する視点で個に応じた指導や集団指導を積極的に行っている。	4 3 2 1	4 3 2 1
		園の特色や地域の実情を踏まえつつ、日常的な教育活動を通じて、子どもたちが社会的自立に向けた資質・能力を身に付けられる取組を積極的に行っている。	4 3 2 1	4 3 2 1
		子どもが、学ぶことと社会とのつながりを意識し、自分らしい生き方を実現するための支援を組織的に行っている。	4 3 2 1	4 3 2 1
	特別支援教育の推進	子どもが主體的に学ぶことのできる保育実践に向け、関係機関等の助言や援助も活用しながら、一人一人の教育的ニーズの把握に努めている。	4 3 2 1	4 3 2 1
園内の教職員間で共通理解を図り、園内の支援体制を構築しながら、すべての子どもの学びが保障されるための環境づくりや保育実践に努めている。		4 3 2 1	4 3 2 1	
3 専門的知識・技能及び態度	教科等の指導に関する専門性	「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を念頭に置き、小学校等との接続を意識して発達の各時期にふさわしい生活が展開されるように指導計画を作成し、実践している。	4 3 2 1	4 3 2 1
		子どもの主體的な活動を引き出せるよう、教材を工夫したり、その教材や友達との出会いを工夫したりするなどより望ましい環境の構成に努めている。	4 3 2 1	4 3 2 1
		遊びや生活の見通しをもったり、振り返ったりする場面を大切に、次の活動への期待や意欲をもつことができるようにしている。	4 3 2 1	4 3 2 1
		園内研修等を通して、指導の過程を振り返りながら子どもの理解を進め、子ども一人一人のよさや可能性などを把握し、指導の改善に生かすようにしている。	4 3 2 1	4 3 2 1
	ICTや情報の利活用	ICT を活用し、子どもの情報活用能力育成のための計画立案や実践に努めている。	4 3 2 1	4 3 2 1
		校務の効率化及び子どもの学習や生活の改善を図るため、教育データを適切に活用している。	4 3 2 1	4 3 2 1
社会の変化への対応	新たな教育課題等に対応した教育(「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を念頭に置いた小学校等との接続を意識した保育改善、いじめ・不登校等への対応、特別支援教育の充実、ICT の活用等)の推進に向けて園内で協働して取り組む体制を整え、実践に努めている。	4 3 2 1	4 3 2 1	
4 学校組織の一員として考え行動する意欲・能力	学校組織マネジメント	園教育目標や経営方針に基づき、自らが担当する校務分掌に関する計画及び学級経営案を立て、その実現を図るとともに、適宜評価を行い改善に努めている。	4 3 2 1	4 3 2 1
		組織の一員としての役割を理解し、教師は創造的で魅力ある仕事であることの認識と誇りをもって働いているとともに、働き方改革の実現に向けて積極的に取り組んでいる。	4 3 2 1	4 3 2 1
	他者との連携・協働	同僚等から学ぶ姿勢をもつとともに、連携・協働して自園の課題解決を図っている。	4 3 2 1	4 3 2 1
		園内研修や保育研究をはじめとする園における様々な機会や場面において、後進に助言を与えるなどして、園内の人材育成に前向きに取り組んでいる。	4 3 2 1	4 3 2 1
5 よりよい社会をつくるための意欲・能力	地域資源の活用と地域貢献	園外の教育資源を教育課程の内容と効果的に組み合わせ、地域住民等と連携・協働して教育活動に取り組んでいる。	4 3 2 1	4 3 2 1
		魅力ある園づくりが、魅力ある地域づくりにつながることを理解し、それを地域と共有し、互いに活性化するようにしている。	4 3 2 1	4 3 2 1
	合意形成に向けた議論の調整・促進	魅力ある園づくり(園教育目標の実現)を目指して職員が議論をしたり、協働したりするように働きかけている。	4 3 2 1	4 3 2 1
		子どもが集団や自己の生活、人間関係等の課題を解決するために、話し合い、合意形成を図ったり、意思決定したりできるような場面を意図的に設定している。	4 3 2 1	4 3 2 1

様式 2 (幼稚園教諭)

〇〇〇 第 〇〇 号  
令和 6 年 月 日

島根県教育センター所長 様

〇〇市立〇〇〇園  
園長 〇〇〇〇

令和 6 年度 中堅教諭等資質向上研修 計画書

1 対象者

氏 名		研修用個人番号(3桁)※	
担任等の校務分掌			

※ 第 I 回教育センター研修で配付した名簿の氏名の前に記載されている 3 桁の番号

2 事前自己評価

育成指標における資質能力	優れている点及び課題
1 豊かな人間性と職務に対する使命感	
2 子どもの発達の支援に対する理解と対応	
3 職務にかかわる専門的知識・技能及び態度	
4 学校組織の一員として考え行動する意欲・能力	
5 よりよい社会をつくるための意欲・能力	
重点とする資質能力	今年度伸ばしたい点
(上記より一つ選び番号を記入する)	
(上記より一つ選び番号を記入する)	

※ 記入にあたっては、P8、14、15 を参照すること。



### 3 研修計画

#### (1) O J T研修

園内における研修	実施予定日	研修内容等	園内外の指導助言者
保育研究	月 日	保育指導案の検討	
	月 日	研究保育と研究協議	
	月 日	保育指導案の検討	
	月 日	研究保育と研究協議	
課題研究	月 日	研究構想、計画の発表	
	月 日	研究中間発表	
	月 日	研究成果発表	
メンタルヘルス	月 日		
園内研修の企画運営	月 日		

#### (2) O f f - J T研修

##### 異校種体験研修（2日）

実施予定日	研修先	研修内容
月 日		
月 日		

##### 園外必修研修（2日）

実施予定日	研修名	研修内容
月 日		
月 日		

様式 2 (幼稚園教諭)

記入例

〇〇〇第〇〇号  
令和6年 月 日

島根県教育センター所長 様

「文書番号」を取得すること。  
例「島教セ第 123 号」

〇〇市立〇〇〇園  
園長 〇〇〇〇

令和6年度 中堅教諭等資質向上研修 計画書

1 対象者

氏名	島根 よし江	研修用個人番号(3桁)※	
担任等の校務分掌	〇〇組担任、〇〇部		

※ 第1回教育センター研修で配付した名簿の氏名の前に記載されている3桁の番号

2 事前自己評価

育成指標における資質能力	優れている点及び課題
1 豊かな人間性と職務に対する使命感	自主的に研修会に参加し、幼稚園教諭の専門性の向上に努めたり・・・
2 子どもの発達への支援に対する理解と対応	支援を必要とする園児への対応において、関係機関との連携に課題がみられ・・・
3 職務にかかわる専門的知識・技能及び態度	子どもの主体的な活動を引き出すよう環境の構成を工夫しているが、「幼児期の終わりまでに育てほしい姿」を・・・
4 学校組織の一員として考え行動する意欲・能力	担当分掌の役割を理解し、園内の職員と協力して行事の準備を進めている園の課題に対する改善策など、職員会議におし
5 よりよい社会をつくるための意欲・能力	地域の行事などに積極的に参加し・・・
重点とする資質能力	今年度伸ばしたい点
(上記より一つ選び番号を記入する) 3	「幼児期の終わりまでに育てほしい姿」を踏まえて、保育計画を作成し、実践していく。具体的には・・・  育成指標における資質能力のうちから2つ選び、何を伸ばしたいのかを具体的に記入する。
(上記より一つ選び番号を記入する) 4	園の課題に対する改善策についての園内研修を企画し、その改善策について共通理解を図るとともに、その実践をリードする。

自己評価表(様式1)をもと  
優れている点と課題を簡潔に  
記入する。

※ 記入にあたっては、P8、14、15を参照すること。

### 3 研修計画

#### (1) O J T 研修

園内における研修	実施予定日		園内外の指導助言者
保育研究	9月中旬	保育指導案の検討	研究主任、園内職員
	9月29日	研究保育と研究協議	〇〇市〇〇指導主事
	12月初旬	保育指導案の検討	管理職、研究主任、職員
	12月15日	研究保育と研究協議	管理職、研究主任、職員
課題研究	5月27日	研究構想、計画の発表	管理職、研究主任
	7月28日	研究中間発表	管理職、研究主任、職員
	2月上旬	研究成果発表	管理職、研究主任、職員
メンタルヘルス	8月6日		〇〇市福利課
園内研修の企画運営	9月27日	講義・グループ協議	管理職

「〇月〇日」又は  
「〇月中旬」等を記  
入する。

園外研修の場合は、主催者等を記入する。

#### (2) O f f - J T 研修

##### 異校種体験研修（2日）

実施予定日	研修先	研修内容
11月4日 11月5日	〇〇小学校	授業等参観及び児童観察 教材準備や授業構想協議

##### 園外必修研週（2日）

実施予定日	研修名	研修内容
8月23日（水）	幼児教育推進研修	幼稚園教育要領に基づいた保育実践について の講義・協議
10月13日（金）	幼小連携・接続研修	幼児教育と小学校教育の円滑な接続に関する 講義・演習

様式3（幼稚園教諭）

〇〇〇第〇〇号  
令和7年 月 日

島根県教育センター所長 様

〇〇市立〇〇〇園  
園長 〇〇〇〇

令和6年度 中堅教諭等資質向上研修 報告書

1 対象者

職名		氏名		研修用 個人番号	
----	--	----	--	-------------	--

2 研修の実施状況

(1) O J T研修

研修の名称等		実施日	研修内容等	園内外の指導助言者等
保育等の 研修	保育研究 (2回)	月 日	保育指導案の検討	
		月 日	保育と研究協議	
		月 日	保育指導案の検討	
		月 日	保育と研究協議	
	課題研究 (3日)	月 日	研究構想、計画の発表	
		月 日	研究中間発表	
		月 日	研究成果発表	
メンタルヘルス	月 日	メンタルヘルス		
園内研修の 企画運営	月 日			

(2) O f f - J T研修

ア 異校種体験研修(2日)

実施日	研修先	研修内容
月 日		
月 日		

イ 園外必修研修(2日)

実施日	研修先	研修内容
8月23日	幼児教育推進研修	幼稚園教育要領に基づいた保育実践 についての講義・協議
月 日		

### 3 対象者の自己評価

育成指標における 資質能力	取組に対する成果	次年度以降の展望 (次年度以降に取り組みたいこと等)

### 4 添付物

- ① 課題研究レポート(最終報告用) [様式6]
- ② 保育指導案 (1回分)
- ③ 園内研修の企画運営 報告書 [様式7]

様式3 (幼稚園教諭)

〇〇〇第〇〇号  
令和7年 月 日

島根県教育センター所長 様

記入例

「文書番号」を取得すること。  
例「島教セ第123号」

〇〇市立〇〇〇園  
園長 〇〇〇〇

令和6年度 中堅教諭等資質向上研修 報告書

1 対象者

職名		氏名		研修用 個人番号	
----	--	----	--	-------------	--

2 研修の実施状況

(1) OJT研修

保育指導案の検討、保育研究、保育後の研究協議等をもって、それぞれ1回分として記入する。

研修の名称等		実施日	研修内容等	園内外の指導助言者等
保育等の 研修	保育研究 (2回)	月 日	保育指導案の検討	研究主任
		月 日	保育と研究協議	研究主任、指導主事、園内職員
		月 日	保育指導案の検討	
		月 日	保育と研究協議	
	課題研究 (3日)	月 日	研究構想、計画の発表	外部講師が参加した場合は、外部講師についても記入する。
		月 日	研究中間発表	
月 日		研究成果発表		
メンタルヘルス		月 日	メンタルヘルス	管理職
園内研修の 企画運営		月 日	〇〇研修の伝達と演習	管理職

(2) Off-JT研修

ア 異校種体験研修(2日)

実施日	研修先	研修内容
月 日 月 日		主な研修内容を記入する。

イ 園外必修研修(2日)

実施日	研修名	研修内容
8月23日(水)	幼児教育推進研修	幼稚園教育要領に基づいた保育実践に関する講義・協議会の協議
〇月〇日(〇)	〇〇〇〇〇研修	幼 続に関する講義・演習

### 3 対象者の自己評価

育成指標における 資質能力	取組に対する成果	次年度以降の展望 (次年度以降に取り組みたいこと等)
	<div data-bbox="699 342 1217 510" style="border: 2px solid black; border-radius: 15px; padding: 10px; width: fit-content; margin: 0 auto;">資質能力自己評価表をもとに、研修の 成果と課題についてまとめる。</div>	

### 4 添付物

- ① 課題研究レポート（最終報告用）〔様式6〕
- ② 保育指導案（1回分）
- ③ 園内研修の企画運営 報告書〔様式7〕

様式は各園の様式でよい。

様式4（幼稚園教諭）

令和6年度 中堅教諭等資質向上研修 オンデマンド研修レポート

園名（ ） 個人番号・氏名（ ・ ）

理解できた内容や意識の変容、実践にどう生かしていくかなどについてまとめる。

研修項目①（幼小連携・接続オンデマンド動画）

研修項目②（ ）

- ※ オンデマンド研修レポート [様式4] にまとめPDFにして研修情報システム MyPage から提出すること。
- ※ A4判縦1ページ程度にまとめること。



園名 ( ) 個人番号・氏名 ( . )

研究主題

1 研究の動機

2 研究の目的

3 研究仮説

4 研究の方法

5 これまでの成果と今後の課題

- ※ A4判縦 資料添付可とする。ただし、教科書等の複製の掲載は不可とする。
- ※ 記載内容については著作権や個人情報、肖像権等に十分配慮すること。

様式6(幼稚園教諭) 令和6年度 中堅教諭等資質向上研修 課題研究レポート

園名 ( ) 個人番号・氏名 ( )

研究主題

1 研究の動機

2 研究の目的

3 研究仮説

4 研究の方法

5 結果

6 考察

7 成果と課題

8 参考文献等

※ A4判縦 資料添付可とする。ただし、教科書等の複製の掲載は不可とする。

※ 受講者のみが接続できるサイトに掲載するので、記載内容については著作権や個人情報、肖像権等に十分配慮すること。

様式7（幼稚園教諭）

令和6年度 中堅教諭等資質向上研修 園内研修の企画運営（報告書）

園名		氏名		個人 研修番号	
実施日		指導助言者			
研修項目					
この内容を選んだ理由	ア 幼稚園教育目標に関連する内容だから。 イ 園全体で取り組むべき内容だから。 ウ 自身が興味のある又は伸ばしたい内容だから。 エ その他（ ） ※ 該当のもの以外は削除してください。複数回答可。				
研修内容や演習方法等の取得先	ア 中堅教諭等資質向上研修における教育センター研修 イ 県教委主催の研修（研修名： ） ウ 市町村教委主催の研修（研修名： ） エ その他（ ） ※ 該当のもの以外は削除してください。複数回答可。				
企画運営の実際					
成果と課題					

内容についての記載は、別紙資料を添付することで、「別紙参照」としてもよい。ただし、運営の実際については、箇条書き等で何をどのようにしたのかが分かるように記載すること。

参考様式（幼稚園教諭） ※この様式を参考に各園で作成すること。

〇〇〇第〇〇号  
令和 年 月 日

〇〇学校長 様

〇〇市立〇〇〇〇園  
園長 〇〇〇〇

### 研 修 依 頼 書

下記のとおり研修を行いたいので依頼します。

#### 記

- 1 研修者名
- 2 研修名称 中堅教諭等資質向上研修 異校種体験研修
- 3 目 的 異校種の授業への体験的参加（授業参観、協議、ティーム・ティーチング等）などを通して、系統性や発達の段階を踏まえた保育の在り方や異校種間の連携について理解し、自らの教育実践を振り返るとともに指導力の向上を図る。
- 4 研 修 日 年 月 日（ ）、 月 日（ ）
- 5 研修内容
- 6 連絡先